

電気代削減や災害時にも役立つ 太陽光発電システム・蓄電池の設置を支援します

本市では、脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの利用を促進するため、太陽光発電システムおよび定置用リチウムイオン蓄電池システムの設置費用の一部を補助します。

太陽光発電システム(住宅用)

▶**対象要件** ▷市内に住所を有し、市内の住宅や倉庫、車庫などの屋根に設置▷発電した電気を自家消費し、余剰電力は電力会社に売電可(完全自家消費可)▷補助対象経費1kW当たり45万円以下(税別)

▶**補助金額** 太陽電池出力1kW当たり3万円(上限4kW)※市内産パネルは1kW当たり4万円

太陽光発電システム(事業者用)

▶**対象要件** ▷市内の事業所、店舗、営業所、倉庫などの屋根およびその敷地内に設置▷発電した電気を自家消費し、余剰電力は電力会社に売電可(完全自家消費可)▷補助対象経費1kW当たり45万円以下(税別)

▶**補助金額** 太陽電池出力1kW当たり3万円(上限20kW)

定置型リチウムイオン蓄電池システム(住宅用)

▶**対象要件** ▷太陽光発電システムを設置済(同時・既設不問)▷一般社団法人環境共創イニシアチブ(SII)に登録されているものであること

▶**補助金額** 蓄電池容量1kWh当たり3万円(上限6kWh)

【共通事項】

▶**対象要件** ▷申込み時点で未着工▷登録事業者(市ホームページに掲載)と施工契約を締結▷設置工事の着手が交付決定通知の日以降▷2026年3月31日までに実績報告書の提出を完了

▶**申込方法** 市ホームページに掲載の申請書を提出

販売・設置工事事業者の登録受付中

販売・設置工事を行う事業者の登録を、随時受け付けています。詳しくは、市ホームページを確認してください。

《問合せ》コウノトリ共生課脱炭素推進室 ☎21-9136



▲市ホームページ

3月

とよおか 生きもの 歳時記

～ジンバ～

皆さんに豊岡の自然を身近に感じてもらうため、豊岡らしい季節の言葉を紹介します。

ジンバが採れる季節になりました

海沿いに住む方々には馴染み深いジンバは春先が旬の海藻です。正式名称はホンダワラで、最近マスコミなどでよく取り上げられるアカモクも、同じホンダワラ科の海藻です。

ジンバは夏のうちは小さくて目立ちませんが、秋から冬にかけてぐんぐん伸び始め、春には長さ2～3mになります。小型船で行う磯見漁で採れます。炊く、炊き込みご飯や汁物の具にするほか、最近では、サッと茹でてサラダに添えたりもするようです。

魚たちのゆりかご

ジンバは私たちの食料となるほか、海ではいろいろな役目を果たしています。



海中にはジンバの森「藻場」があり、メバルやカサゴなど、磯魚の大切なすみかです。また、春を過ぎるとジンバは切れて海面を漂う流れ藻となり、トビウオなどの産卵場所やブリの稚魚のすみ場所になります。ジンバは魚たちのゆりかごにもなっているのですね。

ジンバを育む、山林や湿地

ジンバなどの海藻類が育つには、山林や湿地も大切な役目を果たしていることが最近分かってきました。

海藻や植物プランクトンが育つには「フルボ酸鉄」という栄養分が必要です。これは、陸上の枯れ葉など植物の遺骸から出た物質が鉄分と結びついてできるものです。山林から流れ出る水と比べて、湿地から流れ出る水には、より多くのフルボ酸鉄が含まれています。豊岡で湿地といえば「コウノトリのエサ場」のイメージが強いですが、ジンバも育てているのですね。

豊岡の海、山、湿地が育んだ、豊岡のジンバ。今年もおいしくいただきます！

(写真・文 NPO法人コウノトリ市民研究所 北垣和也)

地域おこし協力隊紹介 ～私と活動と、時々、暮し～

都市部から地方への移住を促進する国の制度「地域おこし協力隊」。個性溢れる隊員自らが活動を紹介するシリーズ！

《問合せ》地域づくり課 ☎21-9096

豊岡市への移住

大学時代、私は城崎温泉でインターンシップを経験しました。城崎の絵画のような風景や癒しの温泉、地域の人々との交流を通じた深い人情味は、とても印象深いものでした。大学卒業後も日本で働きたいという夢を抱き、城崎での素晴らしい思い出が続くことを期待していたところ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で先行きが不透明になってしまいました。しかし、地域おこし協力隊の募集を見つけ、再び城崎温泉に戻ってこれることができました。

協力隊としての活動

現在は「城崎温泉ステキ体験旅行社」で主に中国語圏の観光客に対してガイドを行っています。地域の文化や歴史、特色を理解してもらうことで、彼らの旅行がより充実し、忘れられないものになるようサポートしています。自身の言語スキルと城崎への愛を結び付けることができ、活

vol.46

城崎の魅力を世界に届ける！

詹 佳容

台湾出身。7年前に城崎の旅館で実習生として勤務。一度台湾へ戻るが、城崎温泉で働きたいという想いが強く、2023年から地域おこし協力隊として「城崎温泉駅前観光センター」を拠点に活動中。



動にとってもやりがいを感じています。

また、城崎観光センターでは窓口接客を担当しています。最近は英語や中国語を話す旅行者が増えてきていると感じています。海外からの観光客が城崎のさまざまなアクティビティや観光地を楽しむことができるように情報を提供しています。さらに、城崎温泉の中国語SNSの運営も行っています。SNSを通じてより多くの中国語圏の方々に城崎の魅力を知ってもらいたいです。

今後の活動

活動を通じて、私は再び城崎温泉とのつながりを深く感じる事ができ、この美しいまちで自分の価値を実感できていることを嬉しく思っています。毎日の活動は挑戦と学びに満ちています。ここで成長を続けてさらに多くの素晴らしい思い出を作りたいです。



▲まちガイドもやってます！

多

様な人々と共に生きよう

～多様性を受け入れ、支え合うまちに～

vol16 列 曉梅(レツ ショウメイ)さん(中国出身)

自然と家族、一石二鳥で豊岡に移住

初めまして。列 曉梅と申します。中国の吉林省出身です。長白山が有名で、とてもきれいなところです。

2019年、単身赴任の夫に会いに中国から来ました。ところが、コロナ禍の影響で帰れなくなりました。そこで市内をあちこち探検に出掛けました。豊岡は静かなまちで、買い物と駐車が便利です。特に魚、ハタハタがおいしい。農協の野菜包装紙には生産者の名前が記載されており、自慢の野菜でしょうね。より一層おいしさを感じます。人の多い都会で生活してきた私にとって、自然と緑は贅沢なものです。近くの田んぼは、減農薬や無農薬で米を作っておられます。皆さん優



外国人市民が増えています。このまちの一員として共に暮らし、地域を活性化していく市民としてお互いの理解を深めるため、外国人市民の皆さんの豊岡での暮らしなどをシリーズで紹介しています。

《問合せ》多様性推進・ジェンダーギャップ対策課 ☎23-0341

しいですね。野生動物を保護するため豊岡の人は努力しています。「私が憧れた贅沢な自然生活ができるし、あなたの単身赴任生活も終わる。一石二鳥だ。」と主人に話をし、私たちは移住を決めました。

小さな架け橋でみんなが幸せを感じるように

今は、豊岡市国際交流協会でボランティアとして日本語を教えています。学習者が日本語で困った時には、通訳サポートもします。小さい架け橋役ですが、皆さんが一日も早く日本の生活に慣れて、幸せを感じることができたらいいと思います。

そして、有志と一緒にコウノトリや豊岡を世界に発信し、また私の国も豊岡の皆さんに紹介したいと思います。

(インタビュー：(一社)豊岡市国際交流協会)

